

河川5 戦後の那賀川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「徳島工事五十年史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、1998年)、217頁	<p>那賀川河川環境整備事業 (中略)</p> <p>整備された高水敷は、公園緑地、運動公園等に利用されており、これらは、地域住民のスポーツ、レクリエーションの場として利用されているほか、阿波の八郎まつり(那賀川町)や万代まつり(羽ノ浦町)が開催されるなど、那賀川周辺の住民はもちろん、県民の憩いの場となっている。</p>
建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」(建設省四国地方建設局徳島工事事務所、1981年)、230頁	<p>那賀川の改修 (中略)</p> <p>残された本川の改修で、最大の要点は、富岡水門と芥原堤防による本川と岡川、桑野川の分離である。富岡水門は、昭和16年に着工していたが、戦争の激化で一時中断し、昭和25年に至って工事が再開し、昭和27年に水門と堤防を完成させ、本川からの背水による桑野川、岡川沿川地域の水害が大巾に軽減されることになった。</p>

河川5 戦後の那賀川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
<p>国土交通省四国地方整備局編「那賀川水系桑野川河川災害復旧等関連緊急事業(事後評価)」(平成19年度第1回事業評価監視委員会資料、2007年)、15-17頁</p>	<p>(2)復緊事業後における実績最大洪水での治水効果 事業後の実績最大洪水の平成16年10月台風23号洪水(約650m³/s)において、事業前の場合には、基準地点大原の水位は約11cm高かったものと推定され、事業による水位の低減は浸水被害の軽減等に寄与している。</p> <p>(3)住環境への効果</p> <p>①事業後の堤内地周辺の状況と河川利用</p> <p>■直轄区間(国)</p> <p>○宝田井関地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿南市の中心市街地「光のまちづくり」を展開 平成16年より阿南市の「まちづくり交付金事業」として地元企業が開発したLEDを使用し、「光のステーションプラザ」(阿南駅前)、牛岐城公園「恋人の聖地」、「富岡西児童遊園」(商店街西端)など各所でイルミネーション(電飾計画)の実施により、中心市街地・商店街の活性化と観光資源の創設が図れている。 平成18年度からは「光のまちづくり」と連携したかわまちづくり事業として、桑野川水辺ネットワークの整備を進めており、さらなる地域活性化が期待される。 ・那賀川・桑野川河川防災ステーションの整備を推進 平成14年より災害時における水防活動や応急復旧の拠点整備、コミュニティスペースの整備を進めている。 <p>○上荒井地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引堤により広がった河川敷において、グランド・ゴルフ等の活動が行われるようになり、地域の憩いの場として河川空間が利用されるようになった。 <p>参考)補助区間(県)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業実施により浸水被害が軽減され、早期米コシヒカリはハウスみかん(阿南市山口町)の安定した生産に寄与。 徳島県南部県域振興計画が推進されており、今年5月には「徳島県南部健康運動公園」の野球場が開園。 <p>②道路交通網</p> <ul style="list-style-type: none"> 上荒井地区において、長生橋の架け替えにより幅員を拡幅した。また宝田井関地区(右岸)においては、市道合併事業により堤防整備と合わせ道路拡幅を行い、住民の交通アクセス利便性・歩行者の安全性を向上させた。

河川5 戦後の那賀川改修工事(徳島県)

資料名	ストック効果に関する記述
国土交通省四国地方整備局編「那賀川床上浸水対策特別緊急事業(桑野川左岸)(事後評価)」(平成25年度第5回事業評価監視委員会資料、2014年)、13頁	<p>那賀川床上浸水対策特別緊急事業(桑野川左岸)</p> <p>5.1 完成後確認された事業効果</p> <p>事業の完了後、平成22年4月には、床上特緊急事業の着手以前には床上浸水が発生していた規模の降雨が発生している。しかし、排水機場による内水排除や引堤による桑野川の河積拡大の効果により、床上浸水被害は防止された。</p> <p>平成22年4月洪水による浸水戸数は、同等規模の雨量・流量であった平成10年5月洪水(126戸)、平成16年10月洪水(46戸)と比べて0戸と減少した。また大原観測所の水位は、平成10年5月洪水と比べて約60cm低くなった。</p>
国土交通省四国地方整備局・徳島県編「那賀川水系河川整備計画【変更】」(国土交通省四国地方整備局・徳島県、2015年)、132頁	<p>桑野川床上浸水対策特別緊急事業(平成14年度～平成20年度)の整備効果</p> <p>(中略)</p> <p>事業完了後最大規模の洪水である平成22年4月豪雨では、事業実施前に発生した同等規模の雨量・流量である平成10年5月豪雨(浸水戸数126戸)と比べると、浸水戸数が0戸に減少しました。</p> <p>また、大原観測所の水位は平成10年5月豪雨(水位5.88m)と比べて約60cm低くなりました。</p>
四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、537-538頁	<p>本川と岡川・桑野川の分離工事</p> <p>(中略)十六年に着工され、戦争の激化で一時中断されていた富岡水門と芥原堤防による本川と岡川・桑野川の分離工事は二十五年度に再開され、二十七年度に水門と堤防を完成させ、本川からの背水による桑野川・岡川沿岸地域の被害は大幅に軽減されることとなった。</p>
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」(四国建設弘済会、1988年)、194頁	<p>本川と桑野川の分離</p> <p>(中略)また阿南市住吉町芥原下流の本川と桑野川の合流部を分離し、下流の三角州であった阿南市辰見地区を結ぶ芥原締切堤防(富岡水門地先)が、昭和27年度に完成してからは、本川と支川は完全に分離され、本川洪水の背水による桑野川、岡川沿川地域の被害は解消された。</p>
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局二十年史」(四国建設弘済会、1978年)、112-113頁	<p>本川と桑野川の分離</p> <p>(中略)また阿南市住吉町芥原下流の本川と桑野川の合流部を分離し、下流の三角州であった阿南市辰見地区を結ぶ芥原締切堤防(富岡水門地先)が、昭和27年度に完成してからは、本川と支川は完全に分離され、本川洪水の背水による桑野川、岡川沿川地域の被害は解消された。</p>
建設省四国地方建設局編「四国地方建設局十年史」(建設省四国地方建設局、1968年)、79頁	<p>本川と桑野川の分離</p> <p>(中略)また阿南市住吉町芥原下流の本川と桑野川の合流部を分離し、下流の三角州であった阿南市辰見地区を結ぶ芥原締切堤防(富岡水門地先)が、昭和27年度に完成してからは、本川と支川は完全に分離され、本川洪水の背水による桑野川、岡川沿川地域の被害を解消した。</p>